

北関東自動車道の開通による群馬県沿線地域の観光・レジャー施設への影響

前橋工科大学 学生会員 ○山口 圭
前橋工科大学 学生会員 山本 祐之
前橋工科大学 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

平成5年12月4日に着工して以来、18年の年月をかけ平成23年3月19日に北関東3県を繋ぐ北関東自動車道が全線開通した(表-1)。北関東自動車道は全長約150kmあり、関越自動車道・東北自動車道・常磐自動車道を結ぶ新たな路線となり、双方からの利便性が向上した。群馬県内の北関東自動車道は、関越自動車道の高崎JCTから東北自動車道の岩舟JCTまでの中で延長32kmを占めており、その間にインターチェンジ(以後ICとする)5ヶ所、スマートIC1ヶ所の計6ヶ所の出入口があり、この路線が走っている市町村は高崎JCTのある高崎市から前橋市、伊勢崎市、太田市となっている。このようにICは高崎JCTを除けば6ヶ所が各市の中に2個ずつ設置されていることになる。図-2はこの各ICの利用台数について経年変化でみたものである。これをみると全体的に利用台数は増加し、全線開通後はより増加していく傾向が見受けられる。

このように高速自動車国道の開通によって新たな交通経路が生まれた結果、利用者に変化が生じ沿線地域へ影響をもたらしていく。

2. 研究目的

新たな交通経路の選択が可能となると、人や物流の流れに変化が生ずる。この路線の管理・運営を行っている東日本高速道路株式会社によると、開通1年後の交通量を調査した結果2～3割増加しており、特に大型車は5～9割もの大幅な増加を観測できたと発表した。また一般財団法人計量計画研究所が導き出した試算によると、全線開通に伴う経済効果は10年間で北関東3県全体において3兆円をもたらすという結果がでている。この経済効果は工業、農水産業、商業、観光・レジャーからの利益を予測、算出しているものである。

本研究では北関東3県のなかでも群馬県に着目した。この県は県内の至る所に温泉地があり、またぐんまこどもの国や群馬県立歴史博物館・美術館など幅広い年

表-1 北関東自動車道のあゆみ

日付	概要
平成5年12月4日	北関東道の建設工事開始
12年3月18日	友部JCT～水戸南IC間 開通
7月27日	栃木都賀JCT～宇都宮上三川IC間 開通
12月2日	友部IC～友部JCT間 開通
13年3月31日	高崎JCT～伊勢崎IC間 開通
19年11月14日	笠間西IC～友部IC間 開通
20年3月8日	伊勢崎IC～太田桐生IC間 開通
3月15日	宇都宮上三上IC～真岡IC間 開通
4月12日	桜川筑西IC～笠間西IC間 開通
12月20日	真岡IC～桜川筑西IC間 開通
22年4月17日	佐野田沼IC～岩船JCT間 開通
23年3月19日	太田桐生IC～佐野田沼IC間 開通 全線開通となる



図-1 北関東自動車道路線図

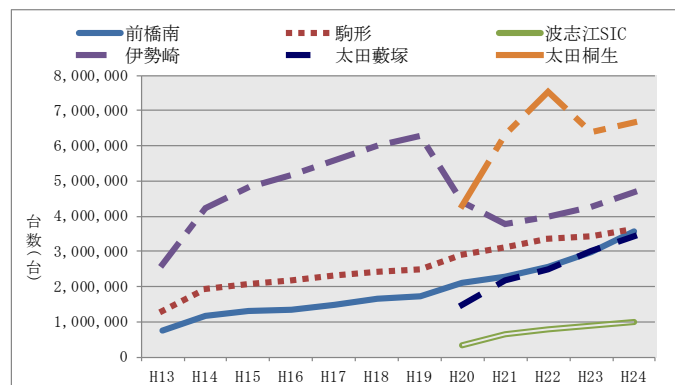


図-2 各ICにおける利用台数の経年変化

キーワード 北関東自動車道、観光、レジャー

連絡先 〒371-0816 前橋市上佐鳥町460番地1 前橋工科大学工学部社会環境工学科

TEL/FAX 027-265-7362 E-MAIL: yuzawa@maebashi-it.ac.jp

年齢が楽しめる施設が多くある。そして鎌倉幕府滅亡の立役者である新田義貞など歴史上に名を残した人、日本百名山のひとつである赤城山や多くの古墳が残っている大室公園などの自然が残り体験・体感できる場所が県内のいたるところに所在している。それに加え、関越自動車道を利用することによって都内からのアクセスがしやすいこと、また東北自動車道と北関東自動車道の接続によって東北地方からも訪れやすくなり日帰りでも宿泊でも十分に満足して楽しむことができる魅力ある県である。

このような観光・レジャー施設が北関東自動車道の開通によってどのような影響をもたらされたのか、この路線が通っている沿線の4市に着目し研究を進めていく。

3. 研究方法

本研究の流れを図-3 に示す。群馬県内における北関東自動車道の沿線である 4 市の主な観光施設の把握、また観光入込客数について全線開通前後で比較する。そして北関東自動車道の前橋南 IC に隣接するパワーモール前橋みなみにおいて自動車ナンバー調査を実施する。そして平成 24 年 1 月 1 日～12 月 31 日までの 1 年間の前橋南 IC の利用状況及び断面交通と照らし合わせ観光面へ開通による影響を把握する。

4. 研究結果

(1) 沿線地域の主な観光地及び沿線の観光入込客数の変化

表-2は沿線4市の主な観光地について一部取り上げたものである。*によって最寄りICからの走行時間別に分けてある。これをみると伊勢崎市、太田市が沿線から近場のところに観光施設があることがわかる。

図-4は群馬県内において関越自動車道のみが営業していた平成7年度と北関東自動車道の開通後の平成23年度の観光客入込客数について、沿線上の4つの市町村及び群馬県全体と比較したものである。

群馬県全体では平成7年度と比べると8.3%の増加に留まったが、沿線上ではどの市も増加が見受けられた。特に影響を見受けられたのは太田市である。この太田市は北関東自動車道が市の東西に縦断しているのみで他の有料道路とは接していない。表-2からもわかるように、沿線近くに観光施設が多くあるが、北関東自動車道の開通によって既存の交通経路よりも時間が短縮され訪れやすくなったことが影響していると考え

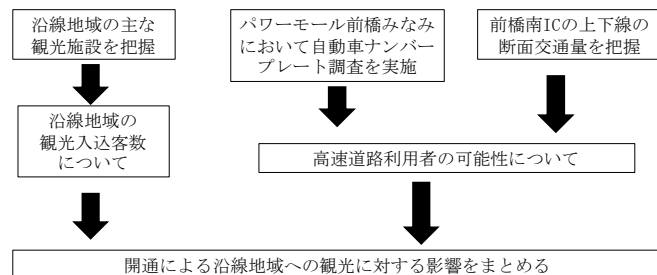


図-3 研究の流れ

表-2 沿線4市における主な観光地

市町村	主な観光地	時間	市町村	主な観光地	時間
高崎市 9ヶ所	旧井上邸・一郎邸 白衣大観音 少林山達磨寺		伊勢崎市 7ヶ所	華蔵寺公園 田島弥平旧宅 島村渡船	** ** **
(1ヶ所)	高崎市美術館 高崎市タワー美術館 高崎市染料植物園 山田かまち水彩デッサン美術館		(6ヶ所)	いせさき明治館 赤堀花しょうぶ園 天幕城跡あかぼり薬園 いせさきオートレース	** ** ** *
	群馬県近代美術館歴史博物館 洞窟観音・山徳記念館・徳明園	*	太田市 12ヶ所	蔵原温泉 スネークセンター 二月月村 丸山カタクリ群生地	* * * *
前橋市 10ヶ所	赤城山・赤城南面 不動大滝 大胡ぐりんふらわー牧場	*** *** ***	(10ヶ所)	ぐんまこども国 大蔵寺のボタン	** **
(5ヶ所)	富士見温泉見晴らしの湯ふれあい館 ザゼンソウ群生地	*** ***		お花畑 高山彦九郎記念館 冠稲荷のボケ 縁切り寺満徳寺 新田義貞供養塔 新田氏歴史資料館	* ** ** ** ** **
	大室公園 敷島公園 前橋公園 リパトピア吉岡 ろなげあく				

※括弧内の数は北関最寄施設の数 *15分圏内**30分圏内***60分圏内

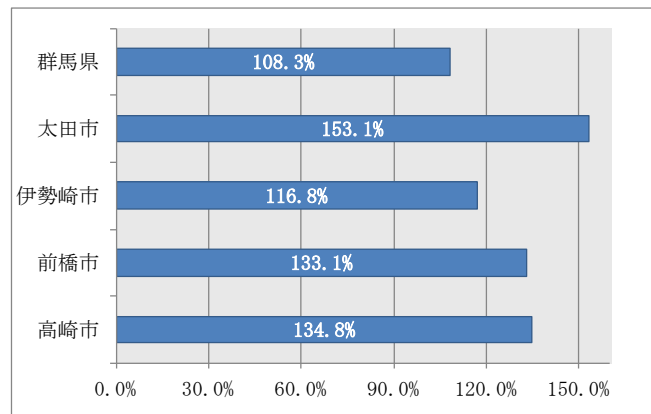


図-4 沿線地域の観光入込客比
平成7年度と平成24年度比

られる。そして、この時間短縮と北関東自動車道の接続によって栃木方面からの新規の来場者を獲得しているのではないかとということが推測できる。

しかし伊勢崎市は観光施設の数が多いにも関わらず増加率が群馬県とほぼ同じにとどまったのは、県外からわざわざ訪れてみたいと思える観光地等が無いためであると考えられる。しかし群馬県富岡市に所在している国の重要文化財である富岡製糸場と絹産業遺産群の世界遺産登録が平成26年6月の世界遺産委員会で決定したならば、伊勢崎市にある絹遺産群の近代養蚕農家の原型となった田島弥平旧宅への見学者が増加すると見込まれる。



図-5 自動車ナンバープレート調査実施場所

(2) パワーモール前橋みなみにおける自動車ナンバープレート調査について

平成 25 年 6 月 23 日(日)に前橋南 IC に隣接している
みなみモール前橋の駐車場で自動車ナンバープレート
調査を実施した。表-3 はそのときの実施概要である。
この施設は平成 22 年 12 月にベイシア電器、カインズ
ホーム、そしてスーパーセンターが、翌平成 23 年 8 月
コストコがオープンし敷地面積約 23 万 m² という県内
でもトップクラスの巨大施設となり、近年のモータリ
ゼーション化を考慮した自動車の駐車場も充分に備わ
った複合施設である。

ナンバープレート調査はこの巨大な施設範囲の中の2ヶ所を比較対象とした(図-5)。1ヶ所目は海外輸入の品物から日用品まで幅広く取り揃えているアメリカ発祥の会員制倉庫店であるコストコ前橋倉庫店、2ヶ所目は日常生活品や生鮮食品を販売しているベシアモール前橋みなみモール店、両施設前方の駐車場を対象場所とする。

図-6 は調査結果をまとめたものである。これよりベイシア側では県内ナンバーが 89.9% に上ることに対して、コストコ側では 52.6% と全体のほぼ半数にとどまる結果となった。つまり言い換えれば県外ナンバーが半数ほどを占めているというである。このベイシアモールは前橋南 IC と隣接する広大な敷地内に書籍や衣服を扱う店舗など複数の店舗が集合して作られた商業施設となっている。今回の結果からコストコ側では近

表-3 ナンバー調査実施概要

実施日	平成25年6月23日 日曜日	
時間	午後1時～2時	
天気	晴れ／曇	
気温	29.2℃／17.3℃	
調査地	コストコ前橋倉庫店、及びベイシア みなみモール店の駐車場	
調査対象	駐車している車(出入庫中は除く)	
調査結果	コストコ側 757台	ベイシア側 633台

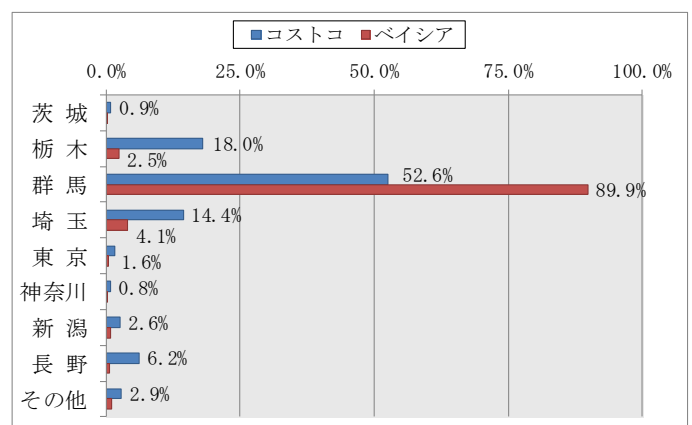


図-6 ナンバー調査実施結果

県からこのお店を目当てに買い物をしに訪れている利用者が多いという可能性が高いことがいえる。この近県から訪れている人がどのような経路でここまでやってきたのか。そこで最も近い IC である前橋南 IC の平成 24 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日の 1 年間の利

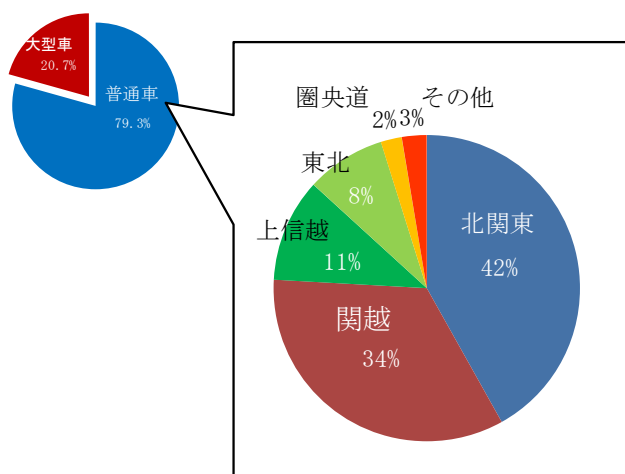


図-7 前橋南 IC を利用する自動車 内訳

状況について図-7 に示す。この年の前橋南 IC の 1 年間の利用者数は普通車 2,830,428 台、大型車 737,290 台の合計 3,567,718 台であり、大型車 20.7%、普通車 79.3%と普通車の利用が圧倒的に多かった。パワーモール前橋みなみを利用している一般利用者は普通自動車を運転して訪れていたため、普通車に焦点を当てる。その普通車の出発地点の高速道路名を路線別にまとめると、北関東自動車道沿線からの乗り入れが 42%であった。これに続いて関越自動車道、上信越自動車道、そして東北自動車道からであった。図-7 と図-6 を比較してみると利用者の割合が類似していることがいえる。

次に前橋南 IC の前後の断面交通量をまとめたものが図-8 である。これより両断面とも平成 19 年度まで緩やかな上昇傾向であったがそれ以降は急激に伸びていった。この平成 19 年度は伊勢崎 IC-太田桐生 IC 間が開通した年である。この開通が契機となりその後の断面交通量は徐々に増加していった。そして平成 22 年 12 月のパワーモール前橋みなみがオープンした翌年の断面交通量はより伸びており、平成 24 年度では両断面ともに 35,000 台を超える結果となった。全線開通により既存経路であった国道 50 号の慢性的な渋滞を避けて前橋南 IC 付近の施設へ訪れやすくなったことが要因のひとつだろう。

これらより近県から時間を損失することなく快適な走行を希望している利用者は北関東自動車道を利用して訪れている可能性が高いといえる。しかし、自動車のナンバープレートの登録地が必ずしも出発地点であると言い切れないことは考慮しなくてはならない点である。

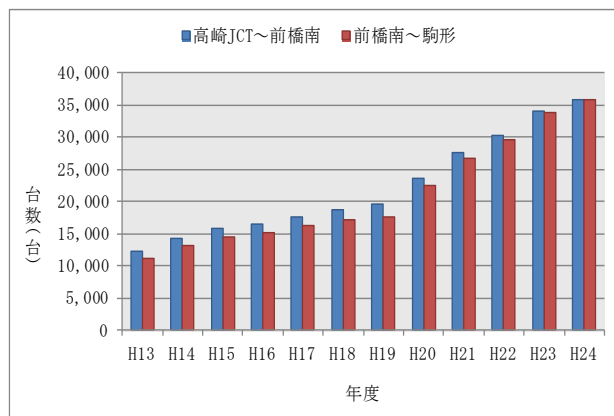


図-8 前橋南 IC の断面交通量

5. まとめ

この北関東自動車道が全線開通してから約 3 年が経過するが、交通量は徐々に増加している傾向にある。沿線の 4 市では観光入込客数が全く開通していなかったときと比べると大幅な増加が見受けられた。観光業は勿論その他の分野にもいえることだが日本の景気の変動により大きく影響を受けてしまう。しかし確実にこの 4 市へ訪れる観光客は全線開通によって多くなっている。観光客数増加の要因となったものは関越・東北・常磐自動車道の 3 路線と結ばれることによって他の路線沿いにある近県から新たな観光客の獲得、また既存の交通経路よりも時間短縮によって快適に目的地へ向かえるようになった点だといえる。

先に述べたように北関東 3 県へもたらされる経済効果は 10 年間で 3 兆円と試算されており、群馬県のみでは 9,600 億円になると見積もられている。この恩恵を 10 年が過ぎた後もなお半永久的に受け続けていくためには観光地の情報をより広く発信すること、走行の快適性、そして何度でも訪れたい施設にするなど力を入れていかなければならない点が多くあるだろう。

参考資料

- 1) 東日本高速道路株式会社 <http://www.e-nexco.co.jp/>
- 2) 群馬県庁 <http://www.pref.gunma.jp/>
- 3) 高崎市 <http://www.city.takasaki.gunma.jp/>
- 4) 前橋市 <http://www.city.maebashi.gunma.jp/>
- 5) 伊勢崎市
<http://www.city.isesaki.lg.jp/www/toppage/00000000000/APM03000.html>
- 6) 太田市観光協会
<http://www.ota-kanko.jp/index.shtml>